

(2) 心理学教育における学士力考察

心理学教育FD/IT活用研究委員会は、21年6月、8月、9月、11月の4回開催した。心理学分野では、心理学検定などの資格試験が身に付けるべき能力として標準化されているが資格試験に特化することなく幅広く捉え、社会で活用できる「力」の発揮を目指すことにした。心理学を学んだことが社会でどのように活かせるのか、学んだ手法や考え方を社会でどのように応用できるかに視点を置き検討した。その上でサイバーFD研究員454人に意見を求め、68人(15%)の意見を踏まえ、以下の通りとりまとめた。ここでは、「コア・カリキュラムのイメージ」、「測定方法」を割愛したので、詳細は資料編【資料5】を参照されたい。

【到達目標1】

人間の心や行動が、生物学的要因、個人的要因および社会・文化的要因の影響を受けていることを理解できる。

【到達度】

- ① 心理学の基礎知識を持ち、人間の心や行動を理解しようとする姿勢を持っている。
- ② 人間の心や行動が生物学的、個人的、社会・文化的要因の影響を受けていることを客観的・論理的に説明できる。
- ③ ②で得た知識を用いて、具体的な心理学的現象を説明できる。

【到達目標2】

人間の心や行動に関わる現象の要因を科学的な手法を用いて明らかにできる。

【到達度】

- ① 因果関係、相関関係を説明することができる。
- ② 実験、調査、観察などの手法について長所・短所を説明できる。
- ③ 心理学的現象の原因や諸要因の関連性を明らかにするために、適切な統計分析法による実験や調査をデザインできる。
- ④ 実験や調査などのデータを吟味し、適切な統計手法による分析を行い、結果の解釈ができる。

【到達目標3】

心理学的理論や手法を自己および社会の諸現象の理解に応用できる。

【到達度】

- ① 既存の理論や概念に基づいて、心理学的観点から問題を発見し、新たな発想が立てられる。
- ② 問題に対する仮説を検証するために、体系的にデータ収集・統計解析ができる。
- ③ 解析結果を踏まえ、適切に結論を導き出し、レポート、論文としてまとめることができる。

(2) 心理学教育における情報教育

心理学教育FD/IT活用研究委員会は、学士力考察をとりまとめの後、21年12月、22年2月に2回開催した。検討は、演習などを通じて情報倫理に配慮して情報の収集・整理から情報発信に情報通信技術を利用できるようにするとともに、専門データベースの利用、実験でのデータ解析、Webサイトを利用した心理現象の理解などをとりあげた。

【到達目標1】

人間の心や行動を理解するために、情報通信技術を用いて文献検索や資料の収集、レポートの作成やプレゼンテーションを行うことができる。

【到達度】

- ① 情報検索と主要なソフトウェア（ワープロ、表計算、プレゼンテーション）に関する基本的な情報処理能力を習得している。
- ② 心理学関連の文献、資料の所在を知っており、またインターネット情報の限界を知り、目的に応じて適切に検索することができ、その情報の信頼性を評価できる。
- ③ 適切な引用方法を知った上で、収集した情報に基づいたレポート作成やプレゼンテーションができる。

【教育内容・教育方法】

- ①は、初年次教育で設定されている情報処理科目で対応する。
- ②は、演習や講義などにより、CiNii, PsycInfo, EBSCOなどのデータベース、日本心理学会を初めとする内外の心理学関連諸学会・団体のサイト、各種マス・メディアの情報など、文献や資料の検索方法、情報の信頼性について理解させる。
- ③は、演習や講義などにより、文献や資料の引用の仕方（および剽窃という概念）、自分の考えの述べ方について理解させ、実際にレポートを書かせ、添削する。

【到達度確認の測定手段】

- ①～③は、レポート、テストや教育支援システム等を用いて確認する。

【到達目標2】

人間の心や行動に関わる現象を明らかにするために、実験・調査・観察に情報通信技術を活用することができる。

【到達度】

- ① 研究目的に応じて科学的に行動を観察し、数量化することができる。
- ② 統計ソフトを用いて、収集したデータの解析（適切な解析方法の選択と実施）を行い、その解析結果を評価、解釈することができる。
- ③ 倫理的側面に配慮した研究計画を立てることができる。
- ④ インターネットを利用して、アンケート調査、心理検査を実施することができる。
- ⑤ コンピューターを用いて、心理学実験の制御ができる。

【教育内容・教育方法】

- ①は、人間の心や行動をどのように測定できるかについて講義した後、心理学実験法などのような実習科目を通じて、実際に研究課題を設定して、実験や質問紙調査のデザインを行わせる（その際、どのようなデータ解析を行うべきであるかについて事前に考えられるようにしておく）。
- ②は、実習科目において①で得られたデータを統計ソフトを用いて分析することを体験させ、その解析結果の解釈を習得させる。
- ③～⑤は、倫理的側面を教育した上で、情報通信技術を用いる実験や質問紙調査を計画させ、一連の研究プロセスを体験させる。またそのために必要なプログラムの作成法や汎用ソフトの使用法を学習させる。

【到達度確認の測定手段】

- ①～⑤は、レポートや学習ポートフォリオを通じて確認する。

【到達目標3】

情報通信技術を用いて、社会の諸現象の理解に心理学的な視点を応用することができる。

【到達度】

- ① ウェブサイトやブログなどから、様々な人間の異質性や多様性の存在を認識できる。
- ② ウェブサイトやブログなどから、社会現象の背後にある人間の心や行動を理解できる。

【教育内容・教育方法】

- ①と②は、演習や実習科目を通じて、ウェブ上にある現象の中からいくつかを選択し、それらを心理学的に理解する作業を体験させる。さらに、その心理学的説明に関する自分なりの（批判的な）考えをもち、新たな研究課題の設定、その研究計画を立てることを体験させる。

【到達度確認の測定手段】

- ①と②は、レポートや学習ポートフォリオを通じて確認する。